

■研究・実践の課題（テーマ）

健常高齢者の長期縦断疫学研究

(Nagoya Longitudinal Study for Healty Elderly:NLS-HE)

■主任研究者 岡田希和子

■共同研究者 葛谷雅文、松下英二、長谷川千紗、西山ゆい、佐竹昭介、大西丈二

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】

超高齢社会の我が国においてフレイルの予防は重要な課題である。予防策の立案のためにはフレイルの前段階にあたるプレフレイルについて研究する必要がある。本研究では、プレフレイルの特徴を性差に注目して明らかにすることを目的とした。

【方法】

Nagoya Longitudinal Study for Healthy Elderly (NLS-HE) 2016に参加し、調査項目に欠損のある者を除いた65歳以上の高齢男女465名のうち、プレフレイル高齢者204名を対象とし横断解析を行った。フレイルの分類は①握力低下（男性 < 26kg, 女性 < 18kg）、②歩行速度低下（<1.0m / sec）、③体重減少（6か月で2~3kg以上）、④活動量低下、⑤疲労感の5項目のうち3項目以上該当した者をフレイル、1~2項目該当した者をプレフレイルとした。プレフレイル高齢者を性別により二分し、その特徴を比較した。

【結果】

465名の内、プレフレイル高齢者は男性80名（41.7%）、女性124名（45.4%）であり有意差はなかった（ $P = 0.534$ ）。プレフレイル高齢者の男女比較では、フレイル分類の疲労感（男性25.0%、女性40.3%、 $P = 0.034$ ）は女性が有意に高く、同様に、握力低下（男性10.0%、女性19.4%、 $P = 0.079$ ）も女性で有意に高い傾向があった。また、活動量低下（男性56.3%、女性42.7%、 $P = 0.064$ ）は男性で有意に高い傾向があった。他、プレフレイル高齢者の特徴では、男性で「飲酒習慣」「日用品の買物をしていない」「預貯金の出し入れをしていない」「友人の家を訪ねていない」、女性で「独居生活」「配偶者無し」「低教育歴」「尿漏れ」「睡眠時間の低下」「階段を手すりや壁をつたわずにのぼれない」「椅子から何もつかまらずに立ち上がれない」「転倒に対する不安が大きい」の割合が有意に大きかった。

【考察】

プレフレイルの特徴に性差がみられる項目も多く、診断項目の該当率にも性差が見られることが明らかとなった。今後、これらの特徴が一般的な性差であるのか、フレイルの性差であるのか、縦断的に解析することで明らかにしていく。